学校プール施設のあり方について【概要版】

1．経緯　本編P2

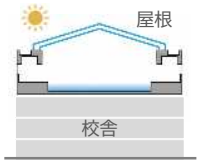
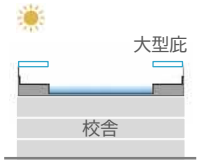
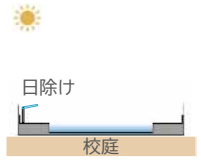
品川区において水泳授業は、生命を守るための知識と技能を習得する機会であるとともに、体力向上や健康増進の観点からも有意義な学習であると捉えており、今後も継続して実施していく方針である。また、プール施設は水泳学習の場であるだけでなく、災害時には防火・消火用水や生活用水として活用できるなど、重要な機能を担っていることから、すべての区立学校（46校）に設置している。

一方で、昨今の猛暑や豪雨等の気象変動に伴い、水泳授業の中止回数が増加するなど、授業の計画的実施が難しくなってきている。

こうした背景を踏まえ、水泳授業の実施率向上に資する施設のあり方や、授業実施方法について検討を進めている。

2．プール施設の現状　本編P2～4

- 学校改築時は、屋外プール整備を基本に、プールの重層化により敷地の有効利用を図っている。
- 30クラス相当以上の大規模校を計画する場合には、水泳授業の効率実施が可能な開閉式屋根の設置を検討することとしている。

プール種別	① 屋内プール（温水対応）	② 屋上プール（開閉式屋根）	③ 屋上プール（屋根なし）	④ 平置プール（屋根なし）
整備イメージ				
整備校数（※）	5校	3校	18校	18校
	改築：小 1、中 1、義務 4／既存：小 0、中 0	改築：小 1、中 0、義務 2／既存：小 0、中 0	改築：小 10、中 2、義務 0／既存：小 5、中 1	改築：小 0、中 0、義務 0／既存：小 14、中 4

※ 2025（令和7）年度時点の数で、改築工事中でプールを解体した学校（源氏前小、浜川中）を除く。

3．プール施設の課題　本編P9

□ 天候による影響

- 猛暑や豪雨等の気象変動に伴い、屋外プールを利用する学校において、水泳授業の中止回数が増加している。プール種別④（平置プール）でその傾向が大きい。

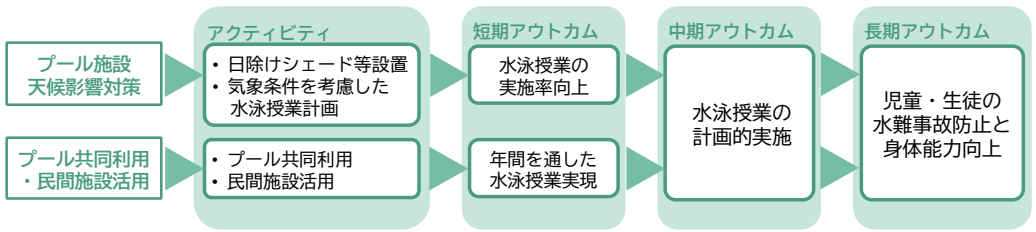
□ コスト

- プール種別①～④間での、整備コストおよび運用コスト差が非常に大きい。

□ 改築中の代替施設確保

- 改築工事が長期化傾向にあるため他校プールなど代替施設の継続確保が難しくなっている。
- 施設利用に係る調整や移動時の安全確保など教職員の負担が大きい。

4．課題解決に向けた検討の方向性　本編P10

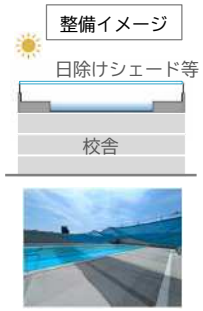


5-①．各対策の考え方　プール施設天候影響対策　本編P10～13

【日除けシェード等設置】

考え方：屋外プールを対象として、日除けシェード等の設置校を拡大する

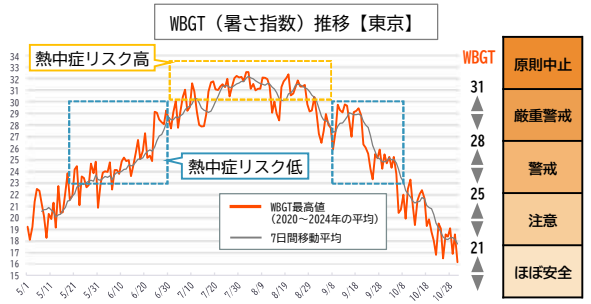
- 今後の取り組み
  - 設計中および今後着手する改築校では、日除けシェード設置を標準仕様として設計に反映する
  - 改築済校および既存校では、施設状況や水泳授業実施状況などを踏まえ、優先順位を見極める
  - 費用対効果に留意し、操作性・耐久性に優れた素材や工法を選定する
  - 空調設備を備えた屋内スペースの設置など、見学者およびプールサイド待機者、急病者の対応が安全にできるスペースの確保を検討する
  - 指導者の暑さ対策についても十分に配慮する



【気象条件を考慮した水泳授業計画】

考え方：各校においてWBGT（暑さ指数）を考慮した水泳授業実施期間を設定する

- 今後の取り組み
  - 水泳授業実施状況調査により、授業実施期間と実施率の相関関係などを分析する
  - 気象情報や各種アラート等発表時の対応について周知する
  - 教職員負担や維持管理コストへの影響を考慮した上で、水泳授業実施期間の柔軟化を図る

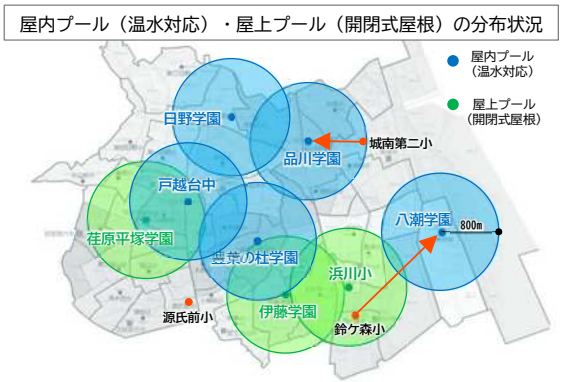


5-②．各対策の考え方　プール共同利用・民間施設活用　本編P16～18

【プール共同利用】

考え方：自校プールで授業が実施できない場合、他校屋内プール等を補完的に利用する

- 今後の取り組み
  - 改築工事中の3校（城南第二小、源氏前小、鈴ケ森小）にてモデル実施する
  - 効果検証を踏まえ、温水プールの学校利用枠を増加するなど、実施校の拡大を検討する



【民間施設活用】

考え方：自校および他校プールで授業が実施できない場合、民間施設の活用を検討する

- 課題　授業時数の確保、恒久的な利用の保証、施設の整備状況、コスト